



### 家政理学科・理学部卒業生にみる「マルチキャリアパスアンケート」 結果概要

日本女子大学では、理系学部の卒業生を対象に卒業後の状況などについてアンケート調査を行いました。その結果、理系の卒業生の8割の方が理系を卒業して良かったとの回答を得た(2007年9月3日朝日新聞)他、半数以上の卒業生が民間企業や大学で、フルタイム、フレックス制、裁量労働制のもとで働き続けている姿が浮かび上がりました。

1901年創立の本学は早くから自然科学が重要であると考え、1908年には香雪化学館が建てられました。1948年に新制大学になると同時に現在の理学部の前身である家政理学科一部、家政理学科二部が発足しました。一般教育科目の自然科学系列として、文系理系を問わず全学的に必修として実験教育が行なわれておりました。そして、1992年に理学部、1996年には大学院理学研究科がスタートしました。

日本女子大学では平成18年度に文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者マルチキャリアパス支援モデル」プロジェクト(3年間)が採択されました。本プロジェクトでは女性研究者の研究活動の継続あるいは中断からの復帰への支援や、女性研究者の活動範囲を研究分野のみでなく、もっと広い範囲のキャリアパスへの拡張や開拓を支援することを目的としています。具体的には、出産・育児中の研究者(U-リサーチャー)支援システムの展開や、人的データベースの蓄積やその活用、近未来の理系女性研究者を増やすことを目的として、中高生向けの科学教室の開催など様々な活動をおこなっております。

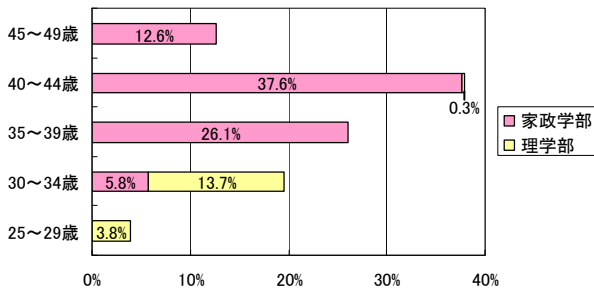
ここでご紹介するのは、このような本プロジェクトの目的の実現に資する基礎データを収集するために行なった標記の「マルチキャリアパスアンケート」の結果概要です。本アンケート結果の詳細は、本学のホームページのプロジェクト紹介の<http://momi.jwu.ac.jp/~mcpweb/>に掲載されております。

# I 基本的な情報

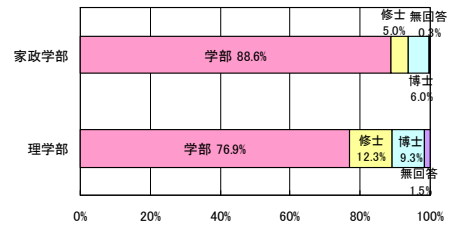
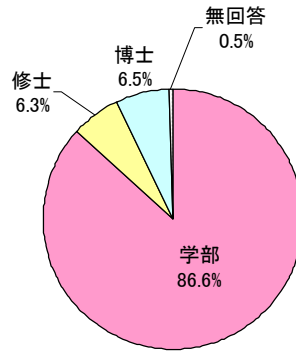
## 基本情報1

実施時期は2007年3月から5月、調査対象は28歳から47歳(当該年度の現役入学生の年齢を意味する)に相当する本学家政理学科・理学部卒業生から1年おきに抽出した1,832名、回答者数は367名です。

### <年齢>

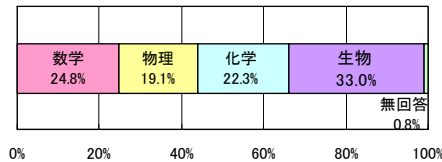
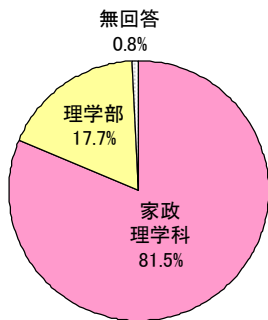


### <最終学歴>

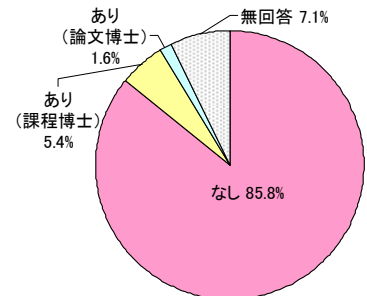


## 基本情報2

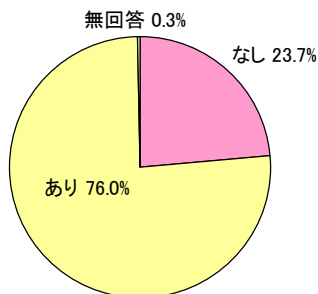
### <専攻分野>



### <学位取得の有無>



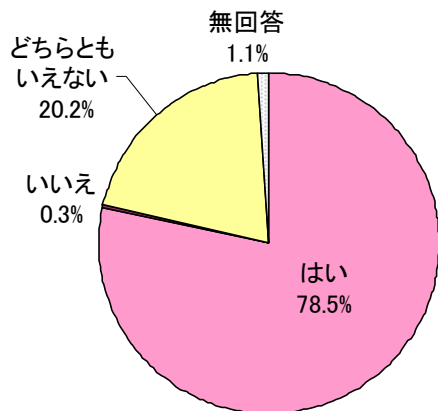
### <配偶者の有無>



全体の70%以上が既婚者であり、理系であることは既婚・未婚には影響しないことがわかります。

## Ⅱ 理系を選択した満足度

### 理系を選択して良かったと思えますか



#### <理由>

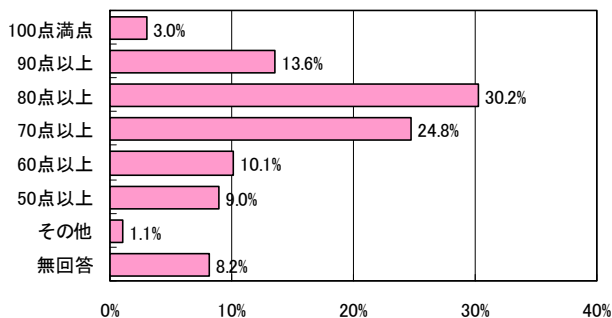
- ・日常の小さな原理、仕組みにも興味を持ち、必要に応じて調べるなど、生活が豊かになる。
- ・日常生活の中で興味の幅が広がった。
- ・論理的な思考力が何かと人生において役立った。
- ・企業において男性と同等に仕事ができる。
- ・その気になれば、社会のことも含め広い分野で勝負が可能（努力しただいで理系も文系もカバーできる。）

理系を選んでよかったとするものが78.5%、よくなかったとするものが0.3%、どちらともいえないが20.2%でした。この結果は、年齢や分野による偏りはみられませんでした。圧倒的に自分の選択に満足していることがうかがえました。

### 『理系で良かった』8割』日本女子大卒業生調査

(2007年9月3日朝日新聞朝刊27面)

### 今の生活の充実・満足度



今の生活(家庭・仕事を含む)の充実・満足度は80点以上を中心として50点以上のものが90%以上を占めました。

これは理系に進学してよかったとする割合が約80%を占めたことと符合しています。概ね理系を選択した女性は人生に満足しているようです。

### <どんなときに充実感・満足感を得られるか？>

#### <職場>

- 新たな発見があったとき
- 新しい知識を得たとき
- 後輩を育てることの充実感
- 仕事への高い評価を得たとき
- 自分の発明が上市するとき
- 人の役に立っていると感じたとき
- 顧客によろこばれたとき

#### <教育の現場>

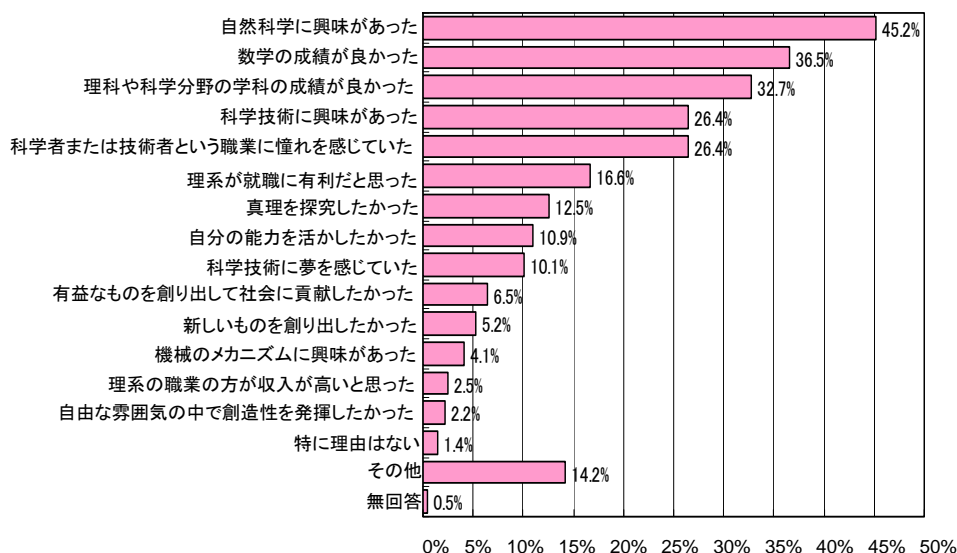
- 生徒がわかる授業ができたとき
- 教え子の成長をみるとき
- 不登校の生徒と意思の疎通ができたとき

### 日常で理系の知識が役立つとき

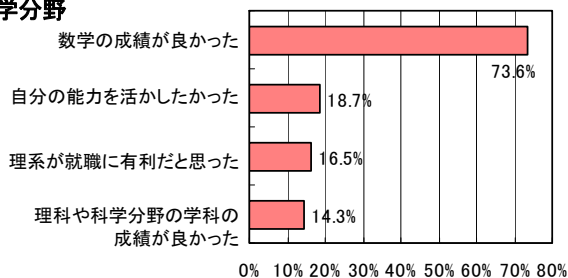
- ・論理的思考力が身につけているので、物事を考えるときに役立つ。
- ・PC操作中のトラブルの解決可能 配線図や化学式、数式にアレルギーは無い。
- ・病気や薬、食物、環境等について不正確な情報にまどわされにくい。
- ・家を新築したとき実測してシミュレーションを行って良い住まいを持つことができた。
- ・料理や掃除などを科学的思考から子供に教えることができる。
- ・子供の勉強を高学年になっても見られた。子供に科学的質問されても答えられる。

# Ⅲ 理系を選択した理由・動機

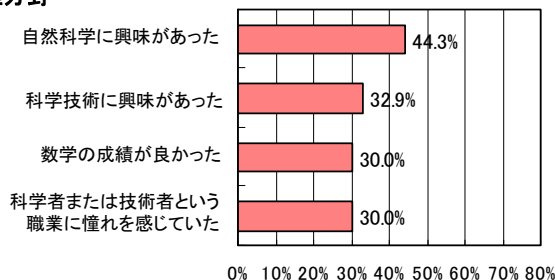
## 理系選択の理由



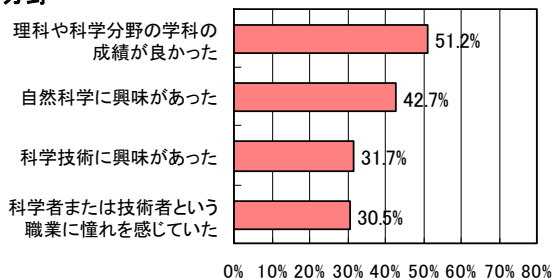
### 数学分野



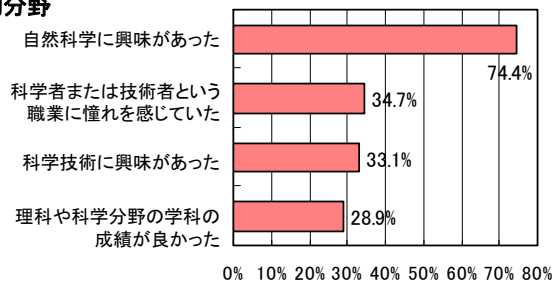
### 物理分野



### 化学分野

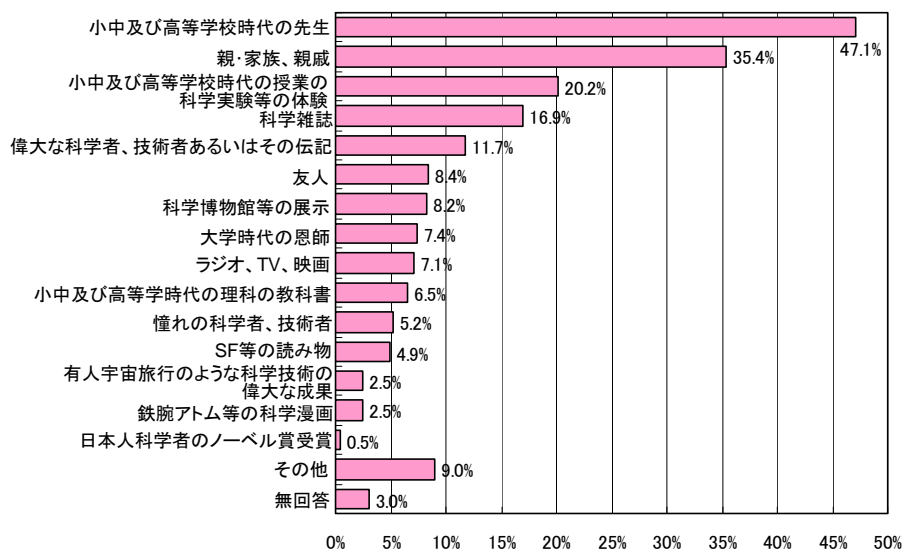


### 生物分野

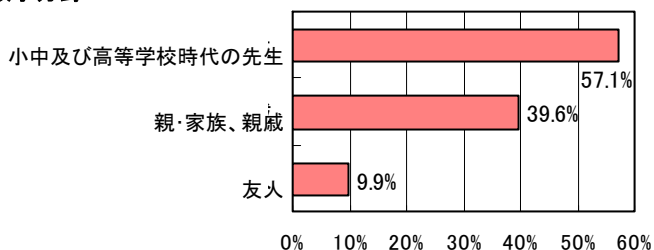


全体としては、自然科学に興味をもったことが理由で理系を選択するよりも、学科の成績で選択した人が有効回答の70.2%と多く、高校の進学指導の影響が大きいことがうかがえました。自然科学の真理探究よりも実用に近い技術系の関心が高く、就職に有利であるなどの現実的傾向がはっきり出ていました。一方では詳しくみると分野による違いも大きくありました。

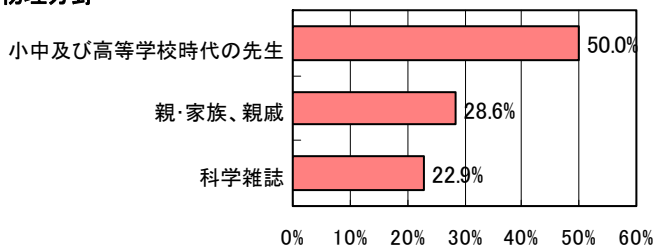
# 進路に影響を与えた人物や事柄



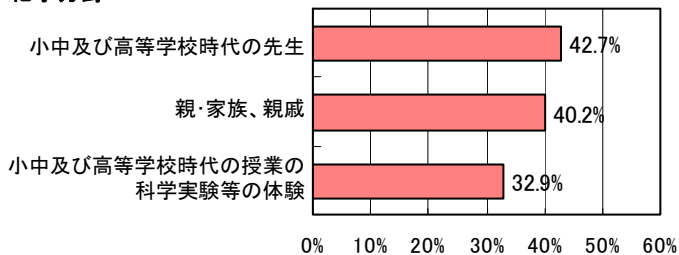
## 数学分野



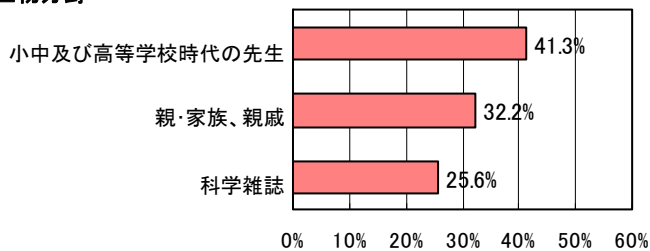
## 物理分野



## 化学分野



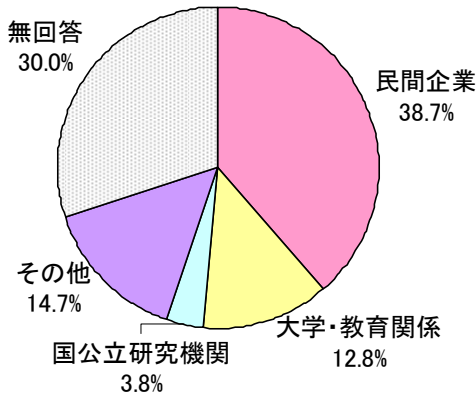
## 生物分野



理系進学の原因は、小中及び高等学校時代の先生が47.1%、親・家族・親戚が35.4%、小中及び高等学校時代の授業の科学実験等の体験が20.2%とあり、中・高等学校での体験とくに先生の役割が非常に大きいことが明瞭に読み取れました。

# IV 職業について

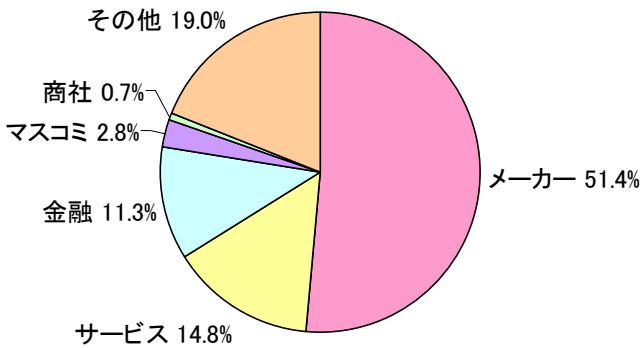
## 現在の職業



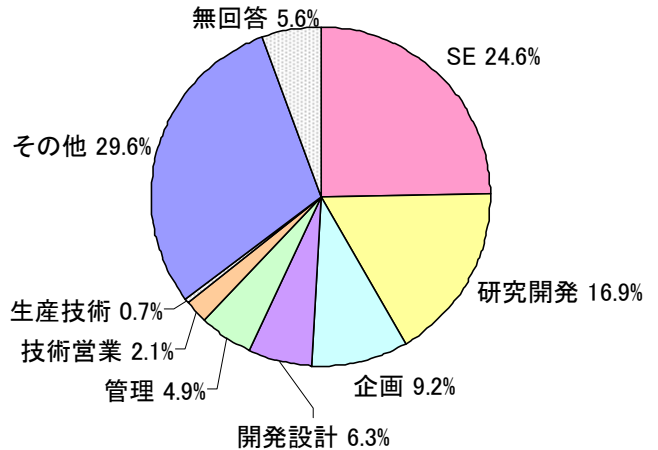
現在の職業は民間企業が38.7%、大学・教育関係が12.8%、国公立研究機関が3.8%でした。女性に開かれた職場は大学関係が比較的大きいですが、国公立研究機関が予想以上に狭き門であることを意味しています。

## 民間企業勤務者の業種・職種

### <民間企業勤務者の業種>

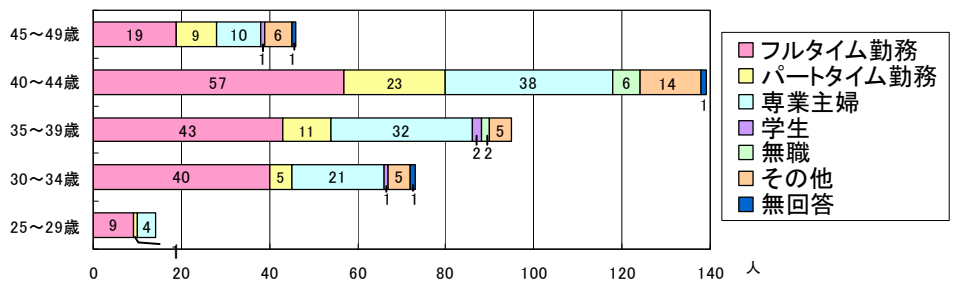
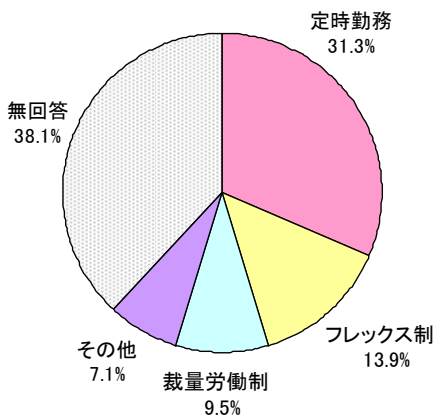


### <民間企業勤務者の職種>



SEが25%弱を占めていますが、これはコンピュータが必須の現在の社会背景によるものと考えられます。技術営業の比率が予想外に低いですが、今後この方面にもっと女性が進出できる社会となることが望まれます。

## 現在の勤務形態

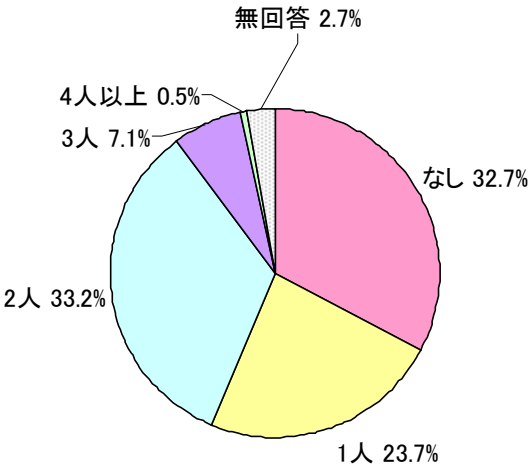


定時勤務が主流ですが、フレックス制や裁量労働制の導入が、家庭と仕事の両立に寄与していると考えられます。年齢別のグラフをみると、フルタイムとパートタイムを合わせた人数の割合が40歳から44歳よりも45歳から49歳の方が増えていることが注目されます。

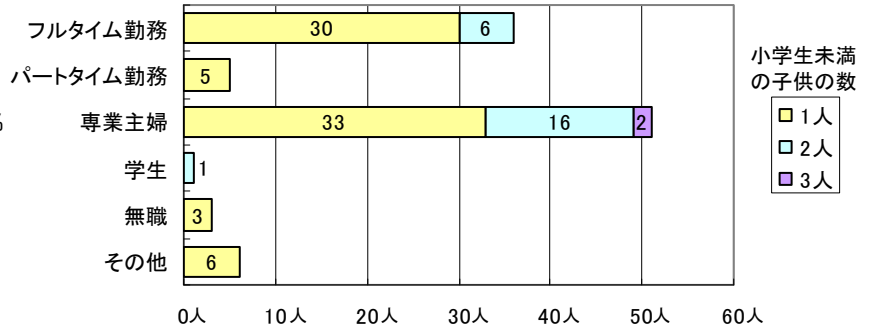
# V 育児について

## 子供の人数と勤務形態

＜子供の人数＞

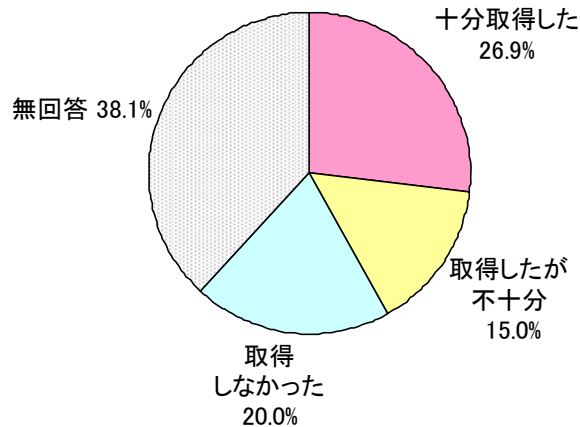


＜子供(小学生未満)の数と勤務形態＞



小学校就学前の子供を持ちながら、女性が家庭と社会の両方で頑張っている実態がうかがえます。

## 育児休暇の取得



### ＜取得不十分の理由＞

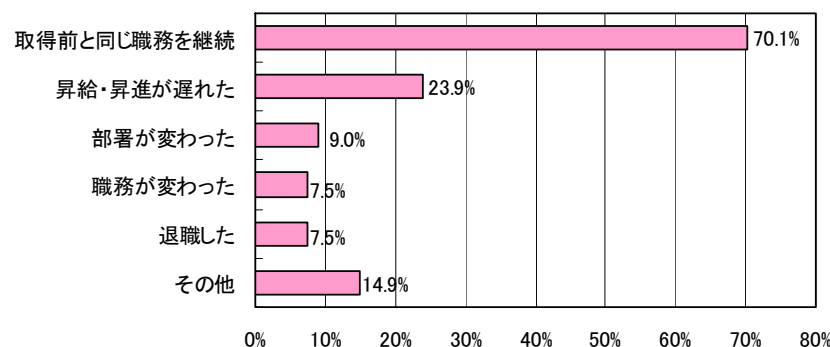
- ・職場復帰時期と保育園入園時期(主に4月)を合わせる必要がある場合が多い
- ・職場に育児休暇を取りにくい雰囲気がある
- ・役職についた立場では長期休暇をとりにくい
- ・育児休暇をとると昇級しにくくキャリアの妨げになる

### ＜取得しなかった理由＞

- ・職場に制度がない
- ・制度があっても仕事との両立が難しいと感じて退職した
- ・任期付のポストでは育児休暇制度を利用できない

育児休暇取得者は40%以上であり、職場における育児休暇制度は整い、制度の利用も定着してきていると考えられます。取得期間を尋ねた設問では長期化の傾向が出ています。一方、自由記述において義務教育年齢の子供の学童保育の充実を望む声がありました。

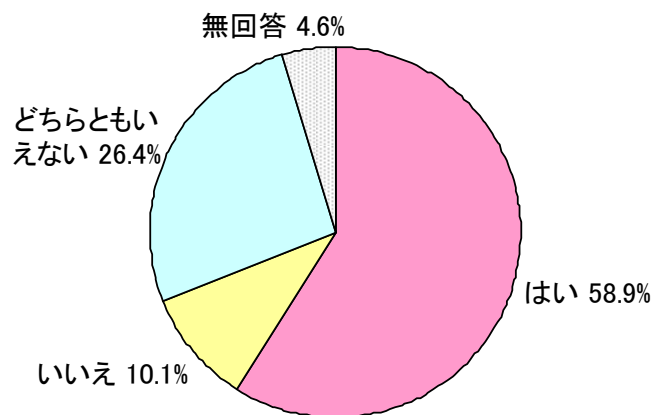
## 育児休暇取得後の影響



育児休暇取得前と同じ職務を継続している割合が70%を超えています。育児休暇の取得が職務の継続に影響を及ぼさない社会になってきている一方で、昇給・昇進が遅れるなどの処遇の差も払拭はされていない現状がうかがえます。能力や業績に応じた評価や成果主義といった女性に対する積極的評価がまだ低いという背景があるでしょう。

## VI 転職・再就職のための支援システム

大学の中に転職・再就職のためのキャリア支援をするシステムがあれば活用してみたいですか？



40代未満に「はい」の回答比率が高い傾向があります。

これらの年齢層はとくに就職活動の方法、経験者からのメッセージ、勤務体験(労働条件を含む)に関する先輩の情報を求めていると思われます。また、自由記述においてとくに地方在住者から、Web上で利用可能なネットワーク検索システムの強い要望がありました。

## VII まとめ

アンケート結果から、本学理系卒業生が在学中に培った専門を土台として、社会にでてからも研鑽を重ねキャリアを築いている様子が伝わってきました。理系を選んで良かったと感じている人が約8割いることや、いまの生活の満足度も高いことはこのような努力の結果でしょう。

発行者 : 日本女子大学「女性研究者マルチキャリアパス支援モデル」プロジェクト推進室  
アンケート分析WG : 大枝一男, 高橋雅江, 高橋征三, 金子堯子, 市川さおり  
発行責任者 : 小館香椎子, 遠山嘉一  
住所 : 〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1 日本女子大学新泉山館2階  
TEL&FAX : 03-5981-4154  
E-mail : [mcp@fc.jwu.ac.jp](mailto:mcp@fc.jwu.ac.jp)  
URL : <http://momi.jwu.ac.jp/~mcpweb/index.html>